

|   |  |
|---|--|
| <b>事業名 : 自然エネルギーの普及モデル構築等支援委託業務</b>   |  |
| <b>会議名称</b>   | 上伊那地域の自然エネルギーの普及を考える学習会                          |
| <b>開催日時</b>   | 平成24年2月25日(土) 13:00~16:30                        |
| <b>実施場所</b>   | 伊那市 伊那商工会議所                                      |
| <b>参加者</b>  | 議事代表:小澤 陽一 司会:寺澤 茂通<br>講師:松尾 寿裕 講師:大場 龍夫 参加者:52名 |
| <b>記録者</b>  | 武居 辰三(事務局コーディネーター)                               |
| (配布資料) <ul style="list-style-type: none"> <li>・上伊那地域の自然エネルギーの普及を考える学習会次第</li> <li>・第1章~第6章 地域住民参加型の小水力発電事業計画策定のためのガイドライン</li> <li>・木質バイオマスエネルギーのススメ</li> <li>・上伊那地域自然エネルギー普及協議会 入会申込書</li> </ul> 実施内容<br>上伊那地域自然エネルギー普及協議会 副会長:小澤 陽一氏の挨拶で開催しました。  |  |
| <b>1. 地域住民参加型の小水力発電事業計画策定のためのガイドライン</b><br>講師:松尾 寿裕 全国小水力利用推進協議会理事 13:15~14:30  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国小水力利用推進協議会の紹介。<br/>2006年設立 全国26か所 法人格は持っていない。</li> <li>・都留市の取り組みについて<br/>地方公共団体の取り組みとして、都留の恩返し債を発行、半額以上は市民出資で集まった。</li> <li>・地域主導の小水力発電について<br/>富山県の事例 1MWの設備工事12億円位、地域の建設事業者が事業主体となり、半額が環境省補助。6500万円/年(1億円) →年間の売り上げを6000万円位に見込んでいる。</li> <li>・立山アルプス小水力事業について<br/>長野の電気として、東京に売るのが。株式会社アルプス資金、おひさまファンドを使って検討。2011年流量測定したところ、確実に1000kwは発電する見込み。</li> <li>・7月から始まる全量買取制度について<br/>買い取り価格について、発電量に基づいて差別化し、一律にしないでほしい。<br/>100kw以下は25円で、20kw以下では30円に設定を想定している。<br/>資源エネルギー庁と国に提言している。</li> <li>・発電水利権許可手続きの合理化<br/>2011年11月から検討開始、現在検討中(2012年3月末に結論)                         <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 小水力発電が河川環境に与える影響度を合理的な根拠に基づいて判断できるよう、海外事例等各種データの収集や調査・研究に着手する。</li> <li>(2) 小規模の小水力発電のうち、減水区間が生じず、魚類の遡上環境その他の河川環境に与える影響が想定されないと判断されるものについて、環境調査等は不要であることとし、その旨周知徹底を行う。</li> <li>(3) 河川区域内において小水力発電施設を設置する場合について、工作物の新築等に係る審査基準のうち、主に構造上の基準について検討する。</li> <li>(4) 発電水利権許可手続きにおける河川影響調査等をめぐるトラブルの未然防止や河川法の運用・許可手続きに対する事業者等の理解を深めるため、国土交通省内に窓口を設置する。</li> </ol> </li> </ul> ※大きな水力発電は100年持つ。<br>※ドイツでは、動力水車を年間200か所位発電水車に変換している。 |  |

## 2. 木質バイオマスエネルギーのススメ

講師：大場 龍夫 株式会社 森のエネルギー研究所 代表取締役 14：40～15：15

株式会社森のエネルギー研究所は10年前に設立し、最初の仕事は上伊那森林組合の事業でした。

- ① 持続可能な社会と木質バイオマス
  - ・森林料としてはフィンランドと肩を並べて世界の中でも最大量保有し、日本は森林大国である。
  - ・適用に管理された人工林は、日本の森林の40%を占めている。(人工林)
  - ・ピークアッパ問題が経済界でも話題になっている。ピークアッパ問題とは、石油の半分を使い切っ  
てしまい、石油の値段がピークを越えて値段が跳ね上がる事である。太陽光・バイオマスとかのエネル  
ギーを使うことで、持続可能な社会になっていくのでは。
  - ・灰はキラわれ者ですが、ミネラル源でありアルカリ現であり、最近では利用価値が見直されている。
  - ・バイオマスの活用については震災後、森林林業再生利用として民主党政権の成長戦力見玉事業であ  
る。
- ② 木質バイオマスの利用方法  
上伊那森林組合のペレットの説明
- ③ 木質バイオマスの利用事例
  - ・蒸気発電、ガス化発電、チップボイラーなどは、2～3千万円(1台)  
民間にも三分の一か二分の一は補助金が出る。5～6年後に回収できる。
  - ・ファーストエスコのバイオマス事業(40億円)の紹介
  - ・ガス化したのを触媒にして発電、秋田で8億円かけて実証実験
- ④ エネルギー利用技術の選択
  - ・石炭との混合→3～4%位チップに混ぜても問題ない。
  - ・薪ストーブの世界→山梨県早川町の事例紹介。(新潟県 株式会社アーク)
  - ・エタノール化→バイオエタノール・ジャパン・関西株式会社の事例発表。
- ⑤ 未来からの発想する  
未来は、現在の延長では問題がある。  
これまでは、消費者は安いから、便利だから、を追い求めてばかりだと生産者にとっては喜びが生ま  
れない。これからは地域資源を活かし、魅力・新価値を創造して、お金とモノ(サービス)と人の  
繋がりの地域循環を目指すべきである。

〈質疑応答より〉

Q:スターリングエンジンについてお聞きしたい。

A:今一番使われているのは、潜水艦のエンジンで、静かなので使用されている。原理的に50kw以上の  
物はできない。

記録写真

ト伊那地域の自然エネルギー普及を考える学習会の様子



